

釧路湿原自然再生普及行動計画 (素案)

2005年 月 日

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
再生普及行動計画ワーキンググループ

目 次

背景	省略
経緯	省略
行動計画の目的と考え方	
計画期間に行う具体的な取組み	例示
参考資料	
(付 属 表)	
2005年度から着手する具体的な取組み予定	例示

行動計画の目的と考え方

(1) 目的

本行動計画は、自然再生推進法の趣旨を受け、全体構想に沿って釧路湿原の自然再生にかかる環境教育や市民参加を一層推進するために作成するものです。

(2) 行動計画の性格

この行動計画は、釧路湿原の自然再生を環境教育や市民参加のもとに進めていくために求められる多岐にわたる課題に対し、「できる者」が「できること」から着手することを原則に、それぞれ自ら取組むことをまとめたものです。

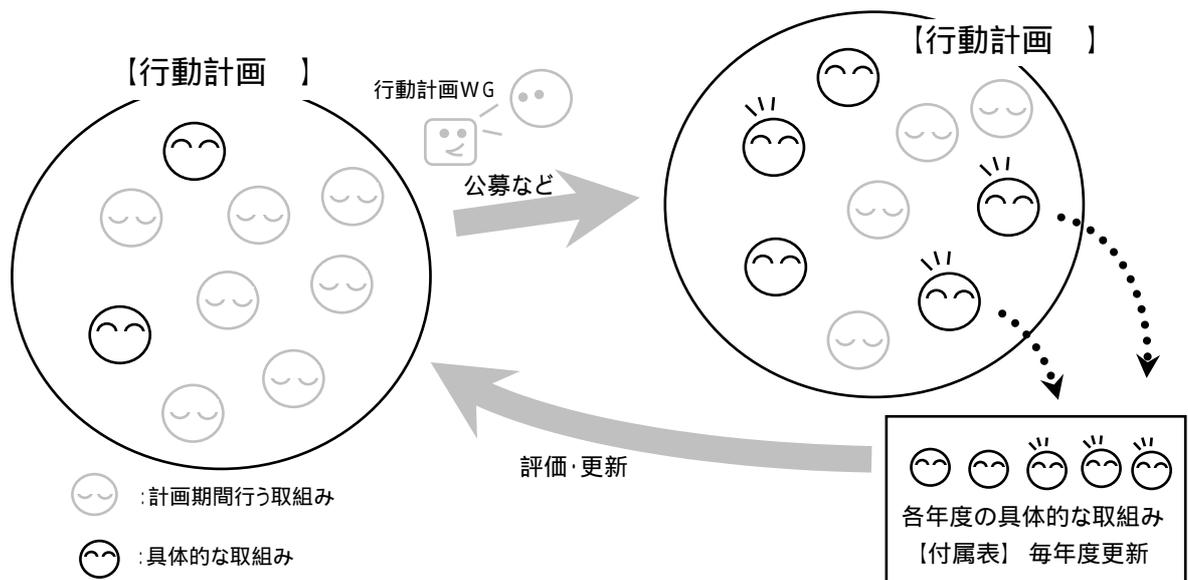
行動計画は、自然再生推進法に基づく実施計画ではありませんが、全体構想に基づき作成される各種実施計画に、環境教育や市民参加の促進を盛り込んでいくための指針としても、重要なものです。

(3) 構成

具体的な取組み(章)については、「市民参加・環境教育の推進に関する10の提言」で整理された項目ごとに、「計画期間に行う取組み」を記載しています。

また、「計画期間に行う取組み」のうち のついた取組みについては、実現の可能性を探り、計画期間中に課題を検討していきます。

「計画期間に行う取組み」のうち、「いつ」「誰が」「誰の負担で」「誰/何を対象に」「何をすべきか」等が明確化された取組みについては、毎年度の「具体的な取組み予定」として別途とりまとめます(「付属表」参照)。

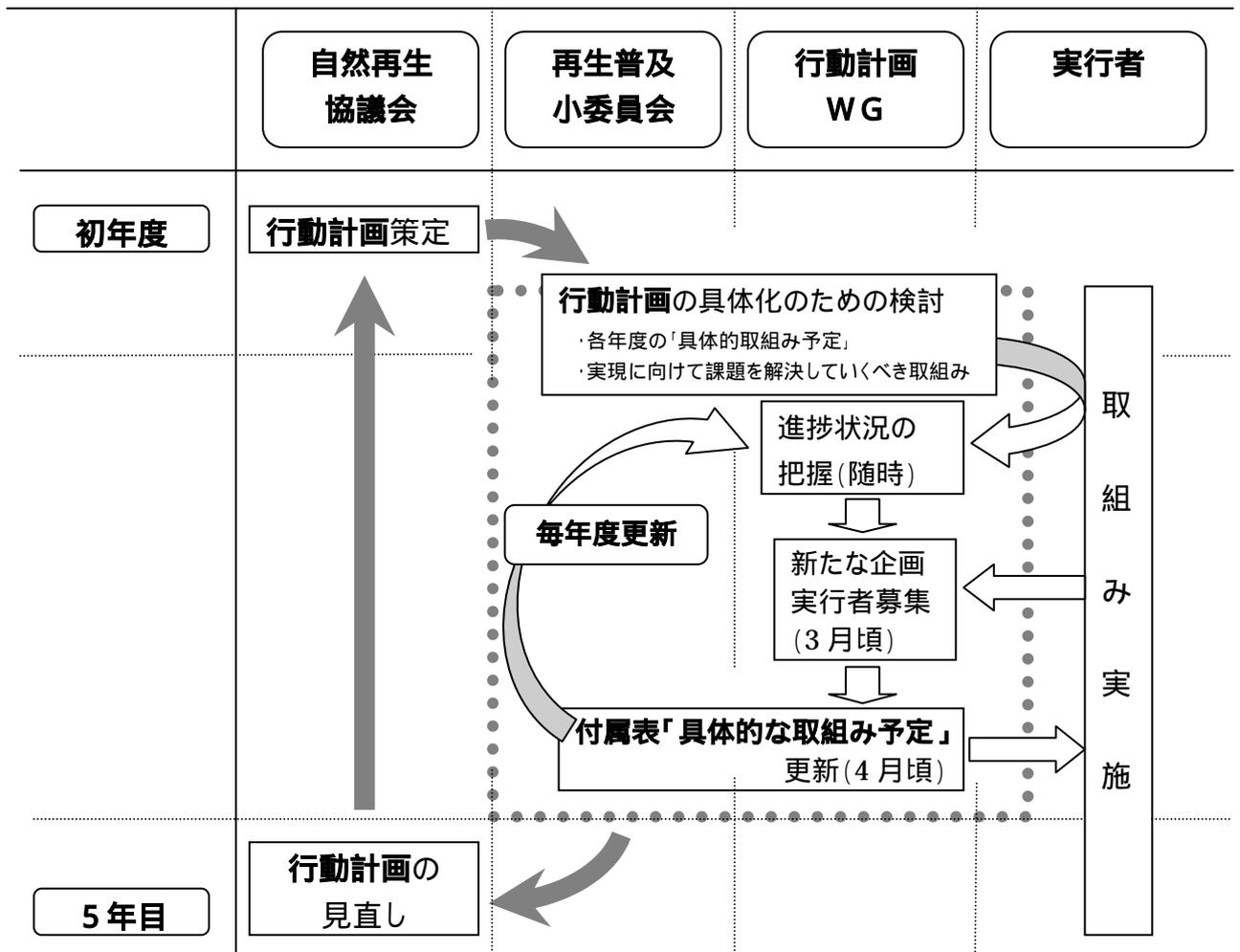


(4) 計画期間と進捗状況の把握

行動計画の計画期間は、全体構想の各施策の達成状況の点検にあわせて、2005年度から概ね5年間とし、その後5年ごとに協議会で見直していきます。
 なお、新しいアイデア等があれば随時とりこんでいきます。

付属表「具体的な取組み予定」に記載された取組みについては、行動計画WG事務局が随時進捗状況を把握します。(その際、継続的に行われている既存の取組みや保全・再生を意識していない、関連する取組みの把握にも努めます。)

行動計画WGは、年度毎に進捗状況をとりまとめ総合的に評価するとともに、新たな取組みや実行者を募集します。これをもとに年度毎に付属表「具体的な取組み予定」を更新し、再生普及小委員会で承認のうえ、協議会に報告します。



計画期間に行う具体的な取組み

構成

- 「市民参加・環境教育の推進に関する10の提言」で整理された項目ごとに、主旨、計画期間に行う取組み(すでに行われている取組みも含む)を記載する。また、実現に向けて課題を解決しなくてはならない取組み()についても記載する。
- このうち、具体化された取組みを付属表(2005年度から着手する具体的な取組み予定)にとりまとめ、毎年度更新を行う。

1. 人々の湿原への関心を喚起する

主旨

- たくさんの人々が湿原に目を向けるよう、関係機関が連携して今よりも効果的に情報を発信し、人々が日常生活や仕事の中で湿原を身近に感じ、関心を持つきっかけを増やしていくことが必要です。
- さまざまな分野や立場に対して、それぞれ効果的な方法で生活や産業と湿原とのつながりを伝えていくことが必要です

計画期間に行う取組み

- ・ 既存のイベント・観察会等のPRを行う
- ・ 湿原を題材としたワークショップを実施する
- ・ 地元メディアを中心としたマスメディアを活用する
- ・ 湿原関連施設で文化事業を実施する
- ・ 街頭やマスメディアを活用したキャンペーンを行う
- ・ 湿原周辺で地域向けに、広報・啓発活動を行う
- ・ 湿原に関する出張講座や移動展示を行う
- ・ インターネットによる湿原情報を発信する
- ・ 地域外の人を感じる湿原の魅力や湿原価値を地元発信する
- ・ 道外・海外へ情報を発信する()

(以下同様な構成)

2. 湿原と人とのかかわりの歴史と今を知る
3. 自然再生の仕組みや動きを広める
4. 自然再生について情報公開と合意形成を進める
5. 自然再生に地域・市民の参加を促す
6. 自然再生への幅広い支援・協力を求める
7. 湿原と継続的に関わる学びの機会をつくる
8. 国立公園の新しい利用形態を創り出す
9. 湿原を訪れる人へのサービスを改善する
10. 人・施設・地域のネットワークをつくる

参考資料

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会 再生普及行動計画ワーキンググループ名簿

：第5回行動計画ワーキングより参加

<個人(所属)>

江崎 秀雄 (森の学習塾代表)
金子 正美 (酪農学園大学環境システム学部助教授)
清水 信彦
新庄 久志 (釧路国際ウェットランドセンター主幹) … 座長
滝川 喜三
永瀬 知志

<団体>

NPO 法人釧路湿原やちの会
釧路湿原ボランティアレンジャーの会
釧路市民活動センターわっと
釧路武佐の森の会
ボランティアネットワーク・チャレンジ隊

<関係市町村>

釧路市 釧路町 標茶町 鶴居村 弟子屈町

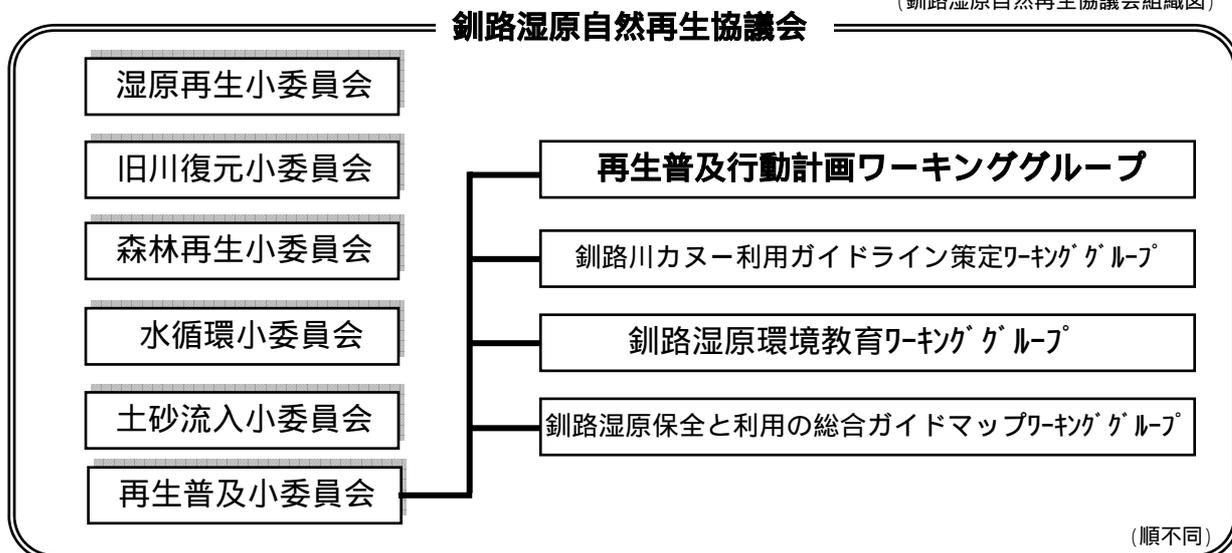
<釧路湿原自然再生協議会 事務局>

国土交通省北海道開発局釧路開発建設部
林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター
北海道釧路支庁
北海道教育庁釧路教育局

<ワーキンググループ事務局>

環境省東北海道地区自然保護事務所
財団法人北海道環境財団

(釧路湿原自然再生協議会組織図)



付属表 2005年度から着手する具体的な取組み予定

1 人々の湿原への関心を喚起する

取組み	内 容		対象者	実行者・協力者	評 価	備考
既存のイベント・観察会等のPRを行う	これまで行われている既存のイベントや観察会などの情報を集約して積極的にPRします。		一般	釧路湿原自然再生協議会 再生普及行動計画WG 再生普及行動計画WG事務局	取扱情報件数、 発信数	5、9と 関連
湿原を題材としたワークショップを実施する	湿原流域の人が参加する交流会やワークショップ、検討会などを開催し、湿原の開発や変遷を知ることや流域住民同士の相互理解を深めます。		一般	釧路湿原自然再生協議会	参加者数	4と 関連
地元メディアを中心としたマスメディアを活用する	地元の新聞や放送局、情報誌などを活用して湿原に関する情報を発信し、多くの目・耳に触れる機会を増やします。	ラジオ番組等を活用して発信します。	一般	FMくしろ	活用した件数(掲載回数など)	
		「じゅう箱のシミ」等を活用して発信します。		ボランティアネットワーク・チャレンジ隊		
		様々な機会でも発信してもらえるように、情報収集・情報提供をします。		再生普及行動計画WG事務局		

以下同様に

2 湿原と人とのかかわりの歴史と今を知る

：

10 人・施設・地域のネットワークをつくる